

第6回日本語教育セミナー in 西安

教育・学術および文化の国際的な振興に関する事業
第16回 陝西省大学生日本語弁論大会・日本語教育事業

●日時：2009年10月17日（土）

日本語教育セミナー in 西安（午後1時30分より）

●会場：西安外事学院

●共催：社団法人 全国日本学士会

陝西教育国際交流協会

西安日本語教師会

●後援：国際交流基金会（日本）

中国教育国際交流協会

京 都 府

陝 西 省 教 育 庁

京 都 市

京 都 新 聞 社

京 都 外 国 語 大 学

財団法人 経済広報センター

名 古 屋 外 国 語 大 学

●協賛：株式会社 内 田 洋 行

話題の展開を考えた談話作り

名古屋外国語大学 外国語学部日本語学科長 教授
中 道 真木男

たとえば、「～をしてください」と頼むとき、その前に、「～という事情があるので」という説明をするのと、あとから言うのと、どちらが適切かは、場合によって変わってきます。親しい相手の場合、軽い依頼の場合、緊急の場合などは〈依頼→説明〉の順になってもいいでしょう。相手が目上の場合、正式な場面などは〈説明→依頼〉が丁寧です。コミュニケーションの場面で、状況を判断し（談話構成要因の考慮）、言うべきことは何か、どの順序で伝えるかを考え（談話構造の構築）、どんなことば・言い方を選ぶかを決めること（実現形態の選択）は、重要な学習内容です。このワークショップでは、人に働きかける「動能的機能」をもつ談話について、実際にいろいろな状況での談話例を作り、検討することを試みます。

聞き取り過程に着目した 聞き取り教育のあり方と教育実践

名古屋外国語大学 外国語学部日本語学科 教授
水 田 澄 子

80年代に開発された外国語教授法には、聞き取りを重視したものが多く見られます。第一言語の発達過程から示唆を得てのことですが、教育実践となると、会話の一部分として聞き取りが位置づけられたり、音声テープを繰り返し聞かせてディクテーションをしたりするだけの聞き取り教育が行われているのが現状ではないかと思います。

本セミナーでは、書き言葉とは異なる話し言葉の特徴を踏まえたうえで、聞き取り過程ではどのような心理的な営みが見られるのかを考え、さらにどのような教育実践につなげていくのかを皆さんとともに考えてみたいと思っています。

日本語教育と最新の音声研究

京都外国語大学 日本語学科教授
土 岐 哲

音声教育には、伝統的に有名ではあるが十分に解決されていない問題と、対面コミュニケーション上重要ではあるのに、なかなか浸透していない問題がある。前者が有声破裂音やリズムなどで、いわば「情報の伝達」に関わる事項、後者はイントネーション等の問題で、情報伝達・感情伝達の両側面に関わるが、いずれも十分に共有され活用されてはいない。これらの点に付いて、時間の許す範囲で具体的に紹介し、教育実践への活かし方を考える。

MEMO

MEMO
